

専門教科「情報」の 学習指導と学習評価の工夫・改善に 関する事例

【大阪府】

科目「コンテンツの制作と発信」における
観点別学習状況の評価の工夫について

目標と評価規準

【目標】

① 学習指導要領を参考にする

② 各学校や地域の現状をふまえる

知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
コンテンツの制作と発信について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身に付ける。	情報社会におけるコンテンツ制作と発信に関する課題を発見し、情報産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決することができる。	情報社会で必要とされるコンテンツの創造をめざして自ら学び、コンテンツの制作と発信に主体的かつ協働的に取り組むことができる。



【評価規準】

③ 目標から生徒が「**何ができるようになるか**」を具体化する

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">コンテンツの種類や特性と、それらの役割・影響を理解する。コンテンツ制作に必要なアプリケーションソフトウェアの操作技術を習得する。コンテンツの保護について理解し、保護技術を扱うことができる。	<ul style="list-style-type: none">適切なアプリケーションソフトウェアを選択できる。自他のコンテンツを客観的に評価できる。コンテンツを通じて、相手に伝えたい内容や思いを伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none">メディアの特性を活かし、伝えたい内容によってコンテンツを組み合わせようとしている。他者のコンテンツ（以下他コンテンツ）を認め、自分のコンテンツ（以下、自コンテンツ）を評価し、改善しようとしている。目的に応じたコンテンツを発信しようとしている。

目標と評価規準

「共通教科情報の評価の観点及びその趣旨」

【文部科学省「各教科等の評価の観点及びその趣旨」より】

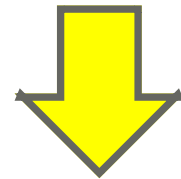
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、 自ら評価し改善しようとしている。

【評価規準】

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">コンテンツの種類や特性と、それらの役割・影響を理解する。コンテンツ制作に必要なアプリケーションソフトウェアの操作技術を習得する。コンテンツの保護について理解し、保護技術を扱うことができる。	<ul style="list-style-type: none">適切なアプリケーションソフトウェアを選択できる。自他のコンテンツを客観的に評価できる。コンテンツを通じて、相手に伝えたい内容や思いを伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none">メディアの特性を活かし、伝えたい内容によってコンテンツを組み合わせようとしている。他者のコンテンツ（以下他コンテンツ）を認め、自分のコンテンツ（以下、自コンテンツ）を評価し、改善しようとしている。目的に応じたコンテンツを発信しようとしている。

学習活動の工夫

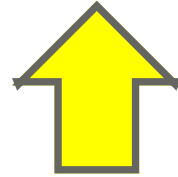
- コンテンツ（①静止画、②動画、③音・音声）については、いずれか1つ以上を選択して扱う
- 制作したコンテンツを効果的に組み合わせるなどコンテンツを統合し、編集する
- 単に、コンテンツを制作するだけでなく、相互に鑑賞し評価するなどの活動を通して、企画力・表現力などが向上するようにする



- 年間を通したテーマを用いて、複数の種類のコンテンツを制作
- 個人制作→グループ制作→評価・改善→グループ制作＋発信の提案

学習活動の工夫

年間を通したテーマ（例：「地元旅行」）で、1学期に静止画のコンテンツを個人で制作し、2学期に動画のコンテンツをグループで制作し、3学期は広報を意識して個人で1・2学期の**コンテンツの改善**（または**改善案の提案**）をした後、グループで1つの統合コンテンツを制作し、発信の提案を行う。



- **年間を通したテーマ**を用いて、複数の種類のコンテンツを制作
- 個人制作→グループ制作→評価・改善→グループ制作＋発信の提案

評価の工夫①

大阪府教育センターにおける評価（+指導）のループバック

「十分満足できる」状況 (A)	「おおむね満足できる」状況 (B)	「努力を要する」状況 (C)と判断された 生徒への指導のてだて	「努力を要する」状況 (C)と判断されそうな 生徒への指導のてだて
理由が分かるよう論理的 に評価し、改善点を提案 できている。	理由を付けて評価してい る。	シート返却時に、育成し たい「客観的に評価でき る」ためのコメント（ヒ ント）を添え、再提出時 に口頭で振り返りの確認 をする。	授業内に全体へ「客観的 に評価するためのポイント」 を声掛け後、個別に声掛 け指導を行う。

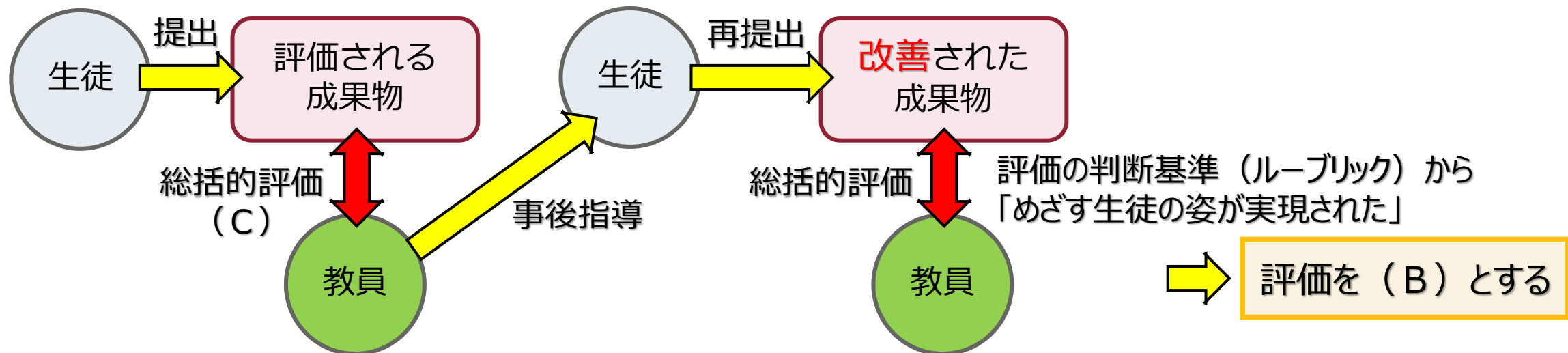
○総括的評価前の指導

授業内で形成的評価を行い、総括的評価において（C）と判断されそうな生徒に
対して、事前指導を行う

評価の工夫②

○総括的評価後の指導による評価

総括的評価を行った直後に、（C）と判断された生徒については、事後指導を行い、改善できた場合は「めざす生徒の姿が実現された」と評価し、総括的評価を（B）とする。



専門教科「情報」の 学習指導と学習評価の工夫・改善に 関する事例

【大阪府】

科目「コンテンツの制作と発信」における
観点別学習状況の評価の工夫について

ご清聴ありがとうございました。